

ら巻きこんでいき、また先頭簡から紐をかけていくほうが機能的だといえよう。事実、ここにあげた例だけでなく、いくつかの帳簿簡は最終簡の背面に署名、点検の注記をもつものもあり、収巻は第一番目の簡から、巻き込んでいったことをはっきりと物語っている。

読むための書物簡と、整理のためのファイル簡とでは、同じ冊書の形態をとってはいるが、編綴、収巻に違いがあったのである。

このことを踏まえて、私はさらに次のような仮説が導き出せるのではないかと考えている。

書物には、完成品となる前段階、言い換えれば編纂の過程があった。それは追加・挿入・組替えの作業に他ならないが、簡牘といった書写材料

は、それが一種のカードともいえる特徴を有していたがため、編纂は容易であった。とともに、追加・挿入を前提としたファイル簡の期間を経た後に書物簡として完成を見た。

中国戦国時代、紙が未だ発見されてはいない諸子百家の書物には、同じ内容をもった編が存在し、また明らかに他の思想家の書、その一部が混入した形跡が認められる。そういった現象は、当時の簡牘といった書写材料、その編綴の有り様が与って力あり、また書物はかかる編纂の過程を経てきたことを如実に物語っていると思われるのである。

(とみや いたる)

新 入 生

オリエンテーションのご案内

新年度のスタートをきる4月、キャンパスに咲く桜と新入生の姿が本格的な春の到来を感じさせてくれます。新入生の皆さんに図書館の利用方法をお知らせして、大いに利用していただこうと、右記の日程でオリエンテーションを開催いたします。図書館の建物内の設備やいろいろなサービスを知っていただき、キャンパス・ライフに役立てていただきたいと思います。同じ内容で、5回開催しますので、都合のよい日にご参加ください。

日 時：4月19日（月）～23日（金）

時 間：12：10～12：45

場 所：附属図書館3階AVホール

内 容：1. 附属図書館の設備の案内
2. 各種サービスの内容説明
3. カード目録とOPAC*について

オプション

希望される方に、終了後約15分ほど1階OPAC端末で実習を行います。

*OPAC：学内所蔵の図書や雑誌を検索するシステム